



Telecom World 2017 報告

一般財団法人日本ITU協会 **たなか 田中** **かずひこ 和彦**



釜山国際展示会議場 (BEXCO)

1. 韓国釜山で開催

Telecom World 2017は、2017年9月25日から28日までの4日間、韓国釜山で、2014年のITU全権委員会議 (PP-14) と同じく釜山国際展示会議場 (BEXCO) で開催された。



韓国科学ICT大臣



釜山市長



ジャオITU事務総局長



ムン・ジェイン大統領

オープニングセレモニーでは、韓国科学ICT大臣、釜山市長、ジャオITU事務総局長の挨拶に続き、ムン・ジェイン大統領がビデオメッセージを寄せた。

主催者によれば、125名 (41か国) による講演、9,100名を越える参加者とのことで、2016年の参加者8,800名に比べ増加傾向であった。

2. 閣僚級ラウンドテーブル

今回の閣僚級ラウンドテーブルは、3テーマ、「Transforming the ICT sector」、「Shaping smart services and industries」、「Digital citizens first」で順次行われた。各セッションは別のテーマが設定されていたが、基調は「ICTをどう活用するのか」「そのための課題は何か」「各国でどのように取り組まれているのか」「将来計画は」という議論であった。

共通するのは、「アフリカではアクセスの問題が第一だ」(ジンバブエ) という発言に代表される通信インフラの不足



セレモニー開始前の会場



ジンバブエ



ペルー



各国閣僚の紹介



メロディ・インターナショナル 尾形社長



インドネシア



ブータン



NICT 加川研究員



Welltool 山本主任

問題で、通信インフラの導入が難しい理由としては、「町が分散していて、人口が少ない」「特にアマゾンには」(ペルー)、「山岳地帯が国土のほとんどを占める」(キルギス)など、地形や低人口密度の問題が大きいと感じた。

また、「OTTに対して税金などの対応をとる予定」(インドネシア)、「自然への配慮、炭酸ガス排出ゼロを意識する」(ブータン)など、各国の興味深い方針も表明された。

「2025年までに人口の50%以上が都市に集中するとの予測」「都市のスマート化が必要」(ベトナム)という発言は意外で、前出の地形や低人口密度の問題と合わせ、日本と共通した課題であるとも感じた。

最後のセッションの議長を務めたサヌー ITU-D局長は、「キャパシティビルディング(通信インフラ導入)は引き続き課題となっている」「ITUとしては若者、子供達への教育、スキル付与に注力している」との発言で、セッションをまとめた。

3. ジャパンセッション

個別のセッションにも関わらず、今年もジャオITU事務総局長が出席し、昨年同様「インフラや応用の進んでいる日本は途上国のいわば未来だ」と日本の位置付けに関して発言するとともに、親しげに本セッションに出席した各国閣僚を紹介されたのが印象的であった。

各社紹介に続き、メロディ・インターナショナル、情報通信研究機構(NICT)、Welltoolが、各社の技術やサービス内容などを紹介した。

会場からはベニンの通信大臣からなど活発な質問があり、出席者の関心の高さがうかがわれた。各セッション会

場の入口ではバッチをスキャンしており、その情報によれば、参加者数72名、海外参加者80%、女性25%、各国政府関係者・ICT業界関係者40%でこの意味でも有意義なセッションであった。

4. 日本パビリオン

日本パビリオンでは、メロディ・インターナショナル、情報通信研究機構(NICT)、Welltoolが展示を行った。日本パビリオンでは各社の技術、サービスが具体的に展示されており、多くの見学者が見て、手に取って、熱心に質問する姿が見られた。

また、主催国閣僚、ITU幹部によるVIP訪問だけでなく、ジャオITU事務総局長の開催前日夜の訪問、ITU-Dサヌー局長の訪問などITU幹部の関心の高さも感じた。



メロディ・インターナショナル



情報通信研究機構(NICT)



Welltool



VIP訪問



5. 各国・各社展示

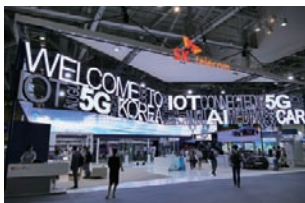
各国による展示が行われたが、開催国の韓国、また、中国（企業）の展示が目立った。



平昌オリンピックをVRで体験



koreaテレコム



SKテレコム

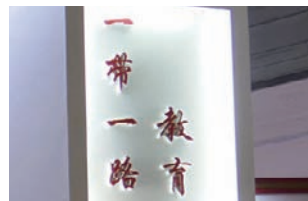


韓国電子通信研究院 (ETRI)

中国は、CSAIA (China Satellite Application Industry Association) とキャリア各社によるパビリオンが大規模であった。



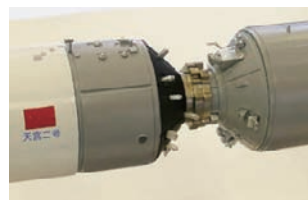
CSAIA



一帶一路スローガン



中国各社



宇宙船模型(中国長城工業総公司)

その他の国では、インドネシアや次回開催国南アフリカのパビリオンが大規模であった。一方、中規模、小規模（ターンキー）なパビリオンも多く、これは出展しやすさを高めるためと思われる。



インドネシア



南アフリカ



ガーナ



イラン

6. "ITU Journal : ICT Discoveries" 創刊セレモニー

ITUより発行予定の"ITU Journal : Discoveries"の創刊セレモニーが行われた。冒頭、ジャオITU事務総局長は、「私の長年の希望だった」と熱く語り、編集長を務める中国精華大学のSong教授は、「子供を育てるようなものです」とコメントした。創刊号はAIをテーマとしており、2017年中に発行予定とのことである。今後、是非、皆様も論文を投稿ください。



ジャオ ITU事務総局長



ITU-T リー局長



編集長 精華大学 Song教授

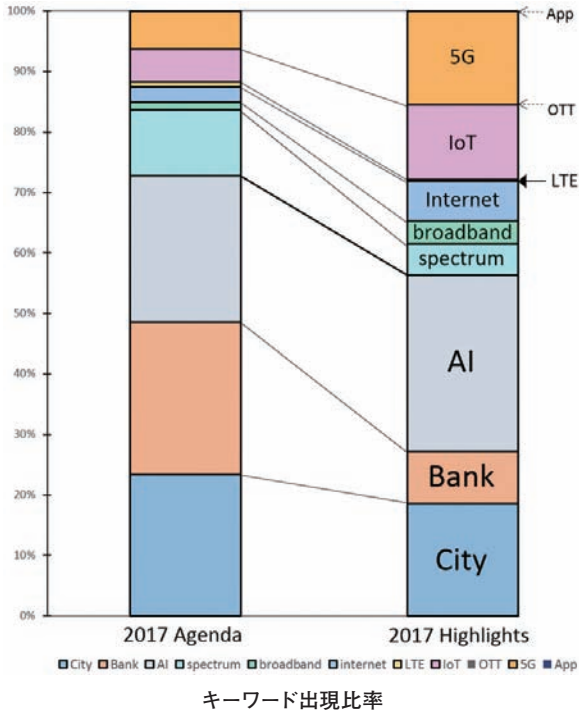
7. フォーラムセッションの様様

多様なフォーラムでの議論を一言で語るのには難しいが、今回のセッション紹介（プログラム）、日々のハイライトに出現したキーワードの比率を比較してみた。



今回は、人工知能 (AI)、金融分野 (Bank)、都市高度化 (Cities) に焦点を当て、「Smart ABC」がテーマでの開催であった。

このテーマの中では、人工知能への関心が高く、また、議論としては、技術的なキーワード、特に「5G」「IoT」について多く語られたことがうかがえる。



8. アワードセレモニー

今回も、ITUテレコムワールド賞の表彰が行われ、日本からはメロディ・インターナショナルが各国賞を受賞し、ジャオITU事務総局長より賞状が授与された。また、日本に対して、長年のITUテレコムワールドへの協力に関して感謝状が贈られた。



メロディ・インターナショナル



日本に感謝状が

9. 所感・感想

個人的な所感・感想は以下である。

- (1) 依然として途上国ではインフラ導入、特にブロードバンド導入が課題である。
- (2) 各国はインフラ整備に加え、産業発展、福祉向上等のためICT活用に取り組んでいる。
- (3) ITUとしては、人工知能の応用、金融分野、都市高度化へのICT応用などICTの活用と関係者との議論の場作りに注力している。
- (4) 過疎問題、都市問題など途上国と日本の共通する課題も多い。

前出のジャオITU事務総局長の「日本は途上国の未来だ」という認識に加え、日本は「課題先進国」でもあると痛感した。

日本では、既にブロードバンドの導入、デジタル放送の実施、高速モバイルサービスの導入などを完了し、それらを生かした社会課題の解決への取り組みも行われている。これらの経験、知見は世界の多くの国々、特に途上国にとって役立つと考える。

10. 次回は南アフリカで開催

次回は2018年9月に南アフリカで開催予定である。アフリカは、人口の拡大、未開発な国土など非常に大きな可能性を持っている。アフリカをはじめとする世界への情報発信の場として、また、動向把握・情報収集のため、是非、ご活用いただき、より多くの皆様に参加していただける事を祈念しております。

Telecom World 2017については、当協会HPでもレポートしています。写真詳細、全天球写真・パノラマ写真、ビデオを、是非、ご覧ください。



〈ITUテレコムワールド2017ビジュアルレポート〉

https://www.ituaj.jp/00_sg/20170925_TW17/TW17.html